

新キャンパス候補地の特徴

1. 茨木
- : 有利な点, 改善効果が期待できる点
: 要検討, 課題となることが予想される点
- (1) 敷地面積
- ・ 約 12.2ha (衣笠キャンパス (12.6ha) とほぼ同等の面積) .
 - ・ 10m^2 / 人の校地面積を指針とすると最大で 12,000 人収容可能 .
学生, 教職員にとって余裕のある魅力的なキャンパスを創ることができる .
衣笠, BKC 両キャンパスの課題を解決し, R2020 を展開するのに十分な面積を有している .
将来でてくるであろう新しい教学・研究展開のための空間的な余地を確保することができる .
既存キャンパスを含めて建物建て替え時のバッファスペースの確保が容易 .
- (2) < 入試 > ロケーションによるポテンシャル JR 茨木駅直近
- ・ 通学1時間以内圏 東: 近江八幡市, 西: 明石市, 南: 堺市, 若年人口 (6 ~ 17 歳): 1,138 千人
新たな受験者層・入学者層の大幅な掘り起こしを期待することができる .
現在, 通学の問題からあきらめている地域の学生に立命館で学ぶ機会を与えることができる .
これまで関学・関大へ進学していた大阪, 兵庫の優秀な高校の進学先となることが期待される .
滋賀県の東部から BKC へ通学する学生は, BKC より通学に 30 分ほど余分に時間を要する .
転出する学部 of 京都ブランドイメージの低下の影響を見定める必要有り .
- (3) < 教学展開・連携 > ロケーションによるポテンシャル JR 茨木駅直近
- ・ 新幹線, 空港, モノレール, 高速道路等へのアクセスが至便
 - ・ 大阪を中心とする産業集積地域との距離が近い
 - ・ 大阪を中心とする行政との距離が近い
 - ・ 関西の人口集積地からの距離が近い
 - ・ 地域からの期待大きい
産業界・行政・地域との連携による新たな教育・研究展開のポテンシャルが高い .
関西の中心に近いこととアクセスの効果により社会人教育, 生涯学習を大きく展開することができる .
JR 東海道線による騒音軽減のためのキャンパスの使い方を検討する必要有り .
- (4) キャンパス開校時期
- ・ 2014 年春ないし 2015 年春 (現在, 更地・建設, 手続き等の不確実性は少ない .)
 - ・ 企業との相対取引のため, 契約により確実に取得することができる .
衣笠キャンパスの狭隘性の改善, BKC のキャンパス課題の解消, R2020 で提案されている諸提案の実現に向けて, 最短で 2014 年度から本格的に取り組むことができる .
- (5) 教学スタイル
- ・ 教養・外国語等の学部共通科目は, 茨木キャンパス独立で配置する必要あり .
 - ・ 事務体制は, 茨木キャンパス独立で配置して運用する .
- (6) 課外活動
- ・ 新キャンパス内で, 体育館 (5千m^2), グラウンド ($1 \sim 2\text{万m}^2$) 等のスポーツ施設を構築することができる .
スポーツ施設の充実を図ることができる .
3 キャンパス間での遠隔連携の仕組み作りが必要 .

2. 山ノ内

(1) 敷地面積

- ・ 約 4.6ha (衣笠キャンパスの約 37%の面積) .
- ・ 10m^2 / 人の校地面積を指針とすると最大で 4,600 人収容可能 . 物理的には最大で 8,000 人程度は収容できるが , 5.8m^2 / 人となり , かなりの狭隘感を感じることになる (現行の衣笠 6.7m^2 / 人) .

衣笠キャンパスの狭隘問題の解消効果は期待することができる .

収容人数を優先すると狭隘感が増加するとともに , 校地における建物や道路の占有面積が増え , キャンパスとしての魅力は低下 . 逆にキャンパス環境を優先すると収容人数は限られてくる .

収容人数の設定にもよるが , BKC からの学部移転は事実上困難 . BKC における R2020 の推進のための空間確保には , 工夫が必要 .

既存キャンパスを含めて建物建て替え時のバッファスペースの確保には工夫が必要 . 収容人数を優先すると現在の衣笠と同様の問題を潜在的に孕んでいる .

将来の新しい教学・研究展開のための空間的な余地を確保することは困難 .

(2) <入試> ロケーションによるポテンシャル 京都市地下鉄 太秦天神川駅直近

- ・ 通学1時間以内圏 東:野洲, 西:大阪(JR), 淡路(阪急) 若年人口(6~17 歳): 717 千人
受験者層と通学圏は , 通学時間の短縮により衣笠より若干の改善効果を見込むことができる (京都駅~衣笠:バスで 45 分 , 京都駅~太秦天神川:地下鉄で 25 分) .

(3) <教学展開・連携> ロケーションによるポテンシャル 京都市地下鉄 太秦天神川駅直近

社会人教育・生涯学習では , 交通アクセスの改善効果を期待することができる .

京都市地下鉄の利用率向上 , 山ノ内周辺の活性化に対する行政からの期待に応えることができる .

産学連携 , 行政との連携に関わる教育・研究展開のための条件は , 衣笠とほぼ同様 .

- ・ 衣笠キャンパス , 朱雀キャンパスとの距離が近い
課外活動等において衣笠キャンパスとの連携が容易 .

(4) キャンパス開校時期

- ・ 2017 年春以降 (土壌汚染 , 埋蔵文化財 , 用途地域変更 , 地下構造物の利用可能性等不確定要因により変わり得る) 埋蔵文化財調査はそれほど範囲が広くないと考えられる .
- ・ 公募により取得しなければならない .
衣笠キャンパスの狭隘性の改善には , 最短で 2017 年度から本格的に取り組むことになる .

(5) 教学スタイル

- ・ 学生の移動を考えると教養・外国語等の学部共通科目は , 山ノ内キャンパス独立で配置する必要あり .
- ・ 事務体制は , 山ノ内キャンパス独立で配置して運用するが , 一部の事務機構は , 衣笠キャンパスと共通で配置も検討可能 .
- ・ 図書館 , 体育館等の設備は , 独立で配置する必要がある .

(5) 課外活動

- ・ 新キャンパス内で , 体育館を構築することができる (グラウンドは不可能) .
- ・ グラウンドを利用する課外スポーツ活動は , これまで同様に衣笠と連携して原谷 , 柊野グラウンド等を使用 .
課外自主活動では , 衣笠キャンパスとの連携がし易い .

資料1 (修正版)

主要な論点【参考】

論点	大阪	山ノ内
開校年度	2014 年度以降	2017 年度以降
取得確実性	高	低
スケジュール見通し	確実	不確実
教学体制・事務体制	独立	独立
アメニティ改善 (衣笠)	2014 年度以降 ・学生減によるアメニティ改善	2017 年度以降 ・バッファ活用による学生会館建替
教学条件等改善 (衣笠)	2014 年度以降 ・人間系教学展開 ・学生数減少による教室条件改善 による教学改革ガイドライン実施	2017 年度以降 ・教室条件改善による 増床による各学部/研究科教学の条件改善
教 学 条 件 等 緩 和 (BKC)	2014 年度以降 (学生数減少による教室条件改善) + 調整池の転用	グラウンド・駐車場・駐輪場・調整池の転用が必要
交通アクセス改善 (BKC)	2014 年度以降 (学生数減少による改善)	別途解決策が必要
入試への影響	大阪・兵庫の優秀高校の受験を期待 志願者の増を期待	京都ブランドに期待
通学 1 時間圏内	JR：明石、近江八幡、八尾、堺市 阪急：三宮、宝塚 (いずれも 50 分) その他：枚方、樟葉	JR：大阪、野洲 阪急：梅田
通学 1 時間以内 若年人口	6-11 歳：581 千人 12-14 歳：274 千人 15-17 歳：283 千人 合計：1,138 千人	6-11 歳：363 千人 12-14 歳：173 千人 15-17 歳：182 千人 合計： 717 千人
財政への影響 (初期投資)	初期投資(数十億円)負担大	初期投資(数十億円)負担小
財政への影響 (管理経費)	大きく変わらない (学生数により若干大)	大きく変わらない (学生数により若干小)
新キャンパス施設	再整備のバッファスペースあり グラウンド・セミナー施設確保可	再整備のバッファスペースなし グラウンド・セミナー施設確保不可
新キャンパス狭隘性	なし	あり
課外活動	遠隔連携 施設充実	衣笠/山ノ内は連携負担小 施設拡張小
学生転居影響	大	小
近隣住民との関係	?	?

公共交通機関を使った場合の移動時間 (分)【参考】

	衣笠	BKC	朱雀	茨木	山之内
衣笠	0	75	20	55	20
BKC	75	0	45	65	60
朱雀	20	45	0	25	5
茨木	55	65	25	0	-
山之内	20	60	5	-	0